

舞鶴医療センター便り

貧血について



●貧血とは

Hb(血色素量)値が低下している状態です。

Hb は酸素を運搬しているので不足した場合、動悸 息切れ 頭痛 めまい 疲労感などの症状が出現します。ゆっくりと進んだ貧血の場合は自覚症状がないことも多いです。

Hb 値が、成人男性で 13g/dl 未満 成人女性では 12g/dl 未満を貧血と呼びます。高齢者では 11g/dl 未満と定義されます。

●貧血の種類：

● 赤血球の大きさ(MCV)による分類

採血結果をお持ちであれば MCV に注目しましょう。MCV(mean corpuscular volume)は平均赤血球容積です。

① 小球性低色素性貧血(MCV<80)：

貧血の中で一番多い**鉄欠乏性貧血**がこのパターンを呈します。他にはサラセミアや慢性炎症(膠原病や結核など)に伴う貧血があります。

② 正球性正色素性貧血(MCV:80~100)：

網状赤血球をチェックします。これで赤血球が骨髓で産生されているかどうかの指標になります。網状赤血球数が増加しておれば、赤血球が壊れる溶血性貧血があります。網状赤血球数が増加していない場合は**腎性貧血**や造血幹細胞の異常によるものがあげられます。

③ 大球性貧血(MCV>100)：

主にビタミン B12 や葉酸欠乏による**巨赤芽球性貧血**がこのパターンとなります。他には甲状腺機能低下症や肝障害でも大球性貧血となります。

ここでは太字の貧血を主に説明していきます。一番多い貧血は鉄欠乏性貧血です。

① 鉄(Fe)欠乏性貧血

原因としては、月経、痔核からの出血によるものや、胃や大腸に癌や潰瘍など出血源がある場合、胃の手術後などがあります。スプーン状爪や舌炎 口角炎の症状を認めることがあるのでチェックしてみてください。

男性や閉経後で MCV の低い貧血の方は消化管検査を是非受けてください。



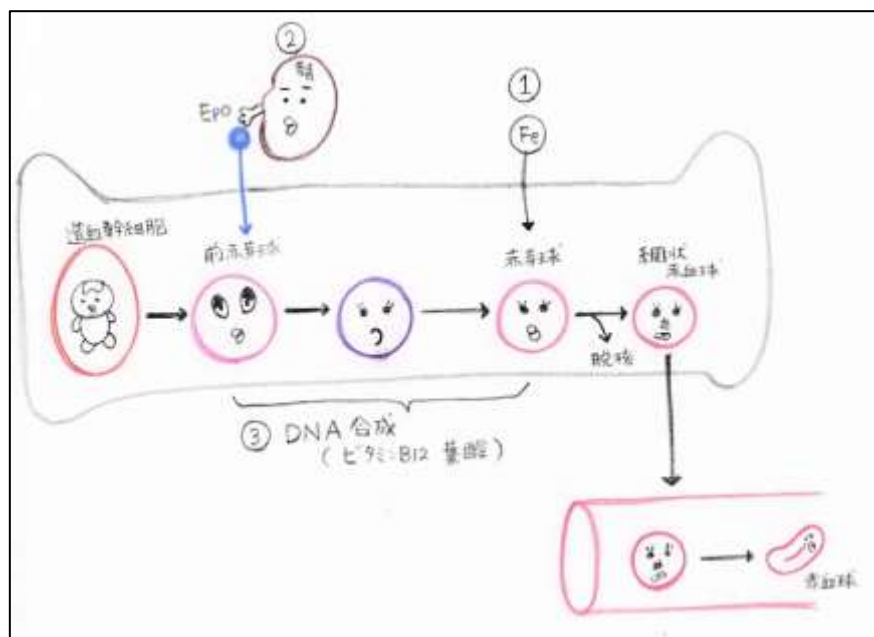
※胃全摘をされている患者さんでは、半年くらいで鉄欠乏を生じてきます。また 5 年くらいでビタミン B12 欠乏性貧血も合併してきます。Fe 吸収には胃酸が、またビタミン B12 の吸収には胃壁細胞から分泌される内因子が必要ですが、胃全摘をされるとこれらが分泌されないためです。胃全摘後はこれらの補充が必要になります。またヘリコバクターが関連する萎縮性胃炎や、胃酸をさげる胃薬を内服されていると Fe 吸収が悪くなります。

② 腎性貧血

腎臓からはエリスロポエチン(Epo)というホルモンが分泌されます。Epo は骨髄の赤芽球を刺激し赤血球の造血を促しますが、腎機能が低下すると Epo の産生が低下し腎性貧血となります。腎性貧血に対しては注射剤の ESA(赤血球造血刺激因子製剤)を補充します。2019 年以降 HIF-PH 阻害剤という新規腎性貧血治療薬が発売されました。ESA との違いは内服薬であること、また Fe を有効利用できることがメリットとされていますが、血栓塞栓症の警告がなされており、狭心症 脳血管障害 末梢血管病変のある方にはリスクを考慮した上で投与が必要です。また糖尿病性網膜症の方や癌患者さんへの使用も注意が必要とされています。

③ 巨赤芽球性貧血

赤芽球の DNA を作るのに必要なビタミン B12 や葉酸が欠乏すると巨赤芽球性貧血という大球性貧血となります。巨赤芽球性貧血では DNA 合成障害があるので、白血球の低下を伴うこともしばしば認めます。症状としては舌の乳頭が萎縮し表面が平滑になる Hunter 舌炎、また亜急性連合性脊髄変性症といった神経症状の合併も知られています。



貧血の種類

- 最近では栄養障害性貧血として銅欠乏に伴う貧血が知られています。

長期経管栄養や高カロリー輸液などをされている患者さんに認める他、亜鉛含有薬(ノベルジン、プロマック)を内服されていると銅欠乏が生じることがあります。

上記のような貧血の原因となる疾患が見つからない場合や、赤血球以外の血球(白血球や 血小板)に異常が有る場合には造血幹細胞に異常がある可能性がありますので、血液内科で骨髄の検査を実施しましょう。

(文責:総合内科 初瀬真弓)